認定医症例報告

審美的要求の高い患者に対しコーヌス義歯を応用した1症例

木本 統

A Case Report: Treatment of an Esthetically Highly Motivated Patient with Konus Telescope Denture

Kimoto Suguru

抄 録

症例の概要：49歳男性，患者は平成11年2月4日に下顎義歯クラスプに対する審美的不満と上顎義歯維持不良を主訴として来院した．患者の審美的満足を得るためにコーヌス義歯を用いて補綴処置を行った症例を報告する．

考察：治療終了後約6年経過するが，支台歯および義歯ともに良好であり，患者の満足度も高い．しかしながら，パノラマエックス線写真の上顎顎堤に吸収像が認められるため，来院時には顎堤吸収によるトラブルの兆候を注意深く観察する必要がある．

結論：上顎顎堤に吸収の兆候があるものの，本症例へのコーヌス義歯の応用は，患者に高い満足感を与えている．

和文キーワード

コーヌス義歯，満足度，顎堤吸収

I. 緒 言

近年，美に対する意識が高まるなか，最も審美性に影響を及ぼすものの1つである歯科治療への意識・要求は多様化してきた．その結果，補綴臨床のなかで審美性に関する配慮は避けて通れず，有床補綴領域では，特にパーシャルデンチャーのクラスプの設計に苦心することが多い．今回，審美的要求の高い患者に対し，コーヌス義歯を応用し，術後6年経過した今も高い満足度と良好な予後を得ている症例を報告する．

II. 症例の概要

患 者：49歳の男性．

初診日：平成11年2月4日．

主 訴：下顎義歯クラスプに対する審美的不満と上顎義歯維持不良．

現病歴：平成8年に上下局部床義歯を装着し，問題なく使用していたが，半年ほど前より上顎義歯が食事中に脱落するようになった．下顎義歯は装着以後，特に問題なく経過しているが，談笑時にクラスプがみえるのが気になる（図1）．

現 症：下顎義歯前歯部のクラスプが談笑時にみえることで審美的不満を招いていた．顎堤の吸収によって上顎義歯の不適合が生じ，義歯の維持・安定が損なわれていた．口腔衛生状態はやや悪く，全顎的にブラークや歯石の沈着が認められる．3～5mmの歯周ポケットが存在するが，歯の病的な動揺は認められない．

日本大学松戸歯学部顎口腔義歯リハビリテーション学講座

Department of Gnatho-Oral Prosthetic Rehabilitation, Nihon University School of Dentistry at Matsudo

受付：2005年7月11日／受理：2005年11月15日

Received on July 11, 2005/Accepted on November 15, 2005

図1 Intraoral view at the first examination
初診時の口腔内所見

X線所見：全顎的に根長1/3程度の歯槽骨の水平的吸収像が認められた（図2）。

III. 治療内容と経過

1. 診断および治療計画方針

1) 上顎義歯

7)の歯冠歯根比がほぼ1:1であるため、レストを介し咬合力を支持させると7)が予後不良となると考えて、レストなしの白金加金ワイヤークラスプを用いた粘膜支持の義歯を作製する治療計画を立案した。

2) 下顎義歯

談笑時のクラスプの露出が不満の原因であることや、対合歯が総義歯に近く、下顎義歯および支台歯へ咬合力の影響が少なく長期にわたる良好な予後が期待できることから、コーヌス義歯による治療を選択した。

3) 保存処置

口腔衛生状態の改善と維持が義歯の予後にかかわるリスクファクターであるため、歯石除去とブラッシング指導を感染根管処置と並行して行い、保存処置終了後補綴処置に移行する治療計画を立案した。

4) 治療の説明と同意

成書¹⁾を用いたコーヌス義歯の説明、生活歯の削除と為害性、治療費用、およびリコールの必要性を説明し同意が得られたので、この計画の基で治療を行うこととした。

At the first examination

After 3 years

After 5 years

図2 A change in abutment teeth and alveolar ridge on panoramic radiograph

パノラマX線写真にみられる支台歯と顎堤の変化

2. 治療内容

1) 予防処置

4)の根管治療期間中にブラッシング指導と全顎スケリングで口腔内環境を整え、その後補綴処置に移行した。

2) 下顎コーヌス義歯

メタルコアにて4)を築造後、ネガティブウインケルが生じないように4 3|4の平行性を考慮し支台歯形成を行った。その後、内冠の印象採得、内冠試適と下顎義歯の機能印象、そして咬合採得へと治療を進めた。外冠および仮床義歯の試適時には、患者による人工歯の形態や色調および排列状態の確認を行い、下顎義歯を完成させた（図3）。

3) 上顎義歯

粘膜支持の義歯とするため印象時には加圧印象を行い、人工歯排列は談笑時の口唇の動きを考慮して床用レジンがみえないように歯頸線の位置を高くした。

図3 Intraoral view at the delivery of prostheses
補綴装置装着時の口腔内所見

3. 経過

装着から3年後(図4)および5年後(図5)の口腔内と義歯の写真およびパノラマX線写真を示す。外冠および下顎前歯部メジャーコネクター部の汚れや歯石が認められたが、支台歯および義歯に問題は認められない。しかしながら、右側上顎顎堤の歯槽骨ラインが初診時に比べ上昇し、顎堤吸収が疑われる(図2)。

装着6年後のリコール時に100 mmVASを用いた補綴装置に対する満足度²⁾を測定したところ、以下のようになり、高い満足度を示していることが明らかになった。

満足度診査

1. 審美性：上顎 93, 下顎 100
2. 維持：上顎 90, 下顎 100
3. 会話：上顎 95, 下顎 100
4. 満足度：上顎 93, 下顎 100, 上下顎 100
5. 咬みごち：上顎 95, 下顎 95
6. 安定性：上顎 100, 下顎 100
7. 清掃性：上顎 100, 下顎 100
8. 快適性：上顎 100, 下顎 100

IV. 考察

コーヌス義歯を応用したこの症例は、治療終了後約6年経過するものの、支台歯および義歯ともに良好であり、さらに患者の満足度も高い状態を示している。しかしながら、上顎右側顎堤に上顎骨ラインの上昇が認められ、患者の自覚症状なしに骨吸収が生じ始めていることが推測された。

図4 Intraoral view at 3 years after the delivery of prostheses
補綴装置装着3年後の口腔内所見

図5 Intraoral view at 5 years after the delivery of prostheses
補綴装置装着5年後の口腔内所見

患者の義歯に対する主観的評価の結果から、義歯機能の高さや咀嚼力の高さが推察できる。これは、下顎義歯がリジッドサポートの支持形態をもつコーヌス義歯の効果と考えられるが、この対価として粘膜支持形態をとる脆弱な上顎顎堤に強い咬合力が加わり、顎堤保全に関する問題が顕在化した形となった。上顎顎堤の保全には⁷⁾に支持を求める混合負担が有利であるが、1:1の歯冠歯根比から⁷⁾の予後に不安が残ると

考えて、この方法を選択しなかった。現在の義歯形態で顎堤の吸収を最小限に抑えるには、義歯の動きを可及的に押さえることが必要である。これには、良好な咬合平衡や義歯床の適合が不可欠であるため、リコール間隔を縮め、これを破綻させる可能性のある咬合面の変化、粘膜面の変化や咬合高径の変化などを注意深く観察し、顎堤吸収を最小に押さえる必要がある。

V. 結 論

上顎顎堤に吸収の兆候があるものの、本症例へのコーヌス義歯の応用は、高い満足感を患者に与えている。

文 献

- 1) Korber KH (河野正司, 五十嵐順正). Konuskroner (ケルバーのコーヌスクローネ 19-31, 東京: 医歯薬出版, 1986). 1983.
- 2) Kawai Y, Machida T, Gunji A et al. Reliability and validity of the Japanese Version of the Visual Analogue Scale as an outcome measurement of complete denture prostheses. *Prosthodont Res Pract* 2 : 64-71, 2003.

著者連絡先: 木本 統

〒 271-8587 千葉県松戸市栄町西 2-870-1

TEL : 047-360-9376

FAX : 047-360-9382

E-mail : kimoto.suguru@nihon-u.ac.jp

A Case Report: Treatment of an Esthetically Highly Motivated Patient with Konus Telescope Denture

Kimoto Suguru

Department of Gnatho-Oral Prosthetic Rehabilitation, Nihon University School of Dentistry at Matsudo

J Jpn Prosthodont Soc : 50 : 268-271, 2006

ABSTRACT

Patient : A 49-year-old male was referred to our hospital in February 1999, complaining of esthetic problems of a mandibular partial denture and poor retention of a maxillary denture. This case was treated with a Konus mandibular denture for obtaining the patient's esthetic satisfaction.

Discussion : The abutment teeth and dentures have been kept in good condition since the dentures were delivered six years ago. According to panorama x-ray, however, the maxillary alveolar ridge appears to have already started to gradually resorp. Therefore, it is very important to carefully check the symptoms of what is wrong with his teeth, dentures, and alveolar ridge during every visit.

Conclusion : The Konus denture has given the patient a great satisfaction, although the potential symptom of maxillary alveolar ridge resorption exists.

Key words

Konus telescope denture, satisfaction, alveolar ridge resorption